

宮城県

登^と米^め市

適切に管理された木材、
自然と共存する知恵、森の癒し。
登米市森林管理協議会では、
豊かな森林資源を活かし、次代へ受け継ぐため、
持続可能な森林経営に取り組んでいます。

豊かな森が、
豊かな未来を作る



登米市森林管理協議会
TOME CITY FOREST STEWARDSHIP ALLIANCE

豊かな森林資源を次世代へと受け継ぐために

■ FSC® 森林認証について

責任ある森林管理を普及する非営利組織FSCでは、世界共通の基準で認証した森林・木材から生産された製品にのみFSCラベルを発行しています。非認証製品との差別化を図ることは、適切な管理を受けた森林を増やすことにつながります。FSC森林認証は、林業関係者、加工・流通・販売者、需要者が一体となり、木材を有効に利用しながら森林を守る仕組みです。

FSC®: Forest Stewardship Council® (森林管理協議会)

詳しくは右のQRコードから



■ 自然と共生したまちづくりを目指して

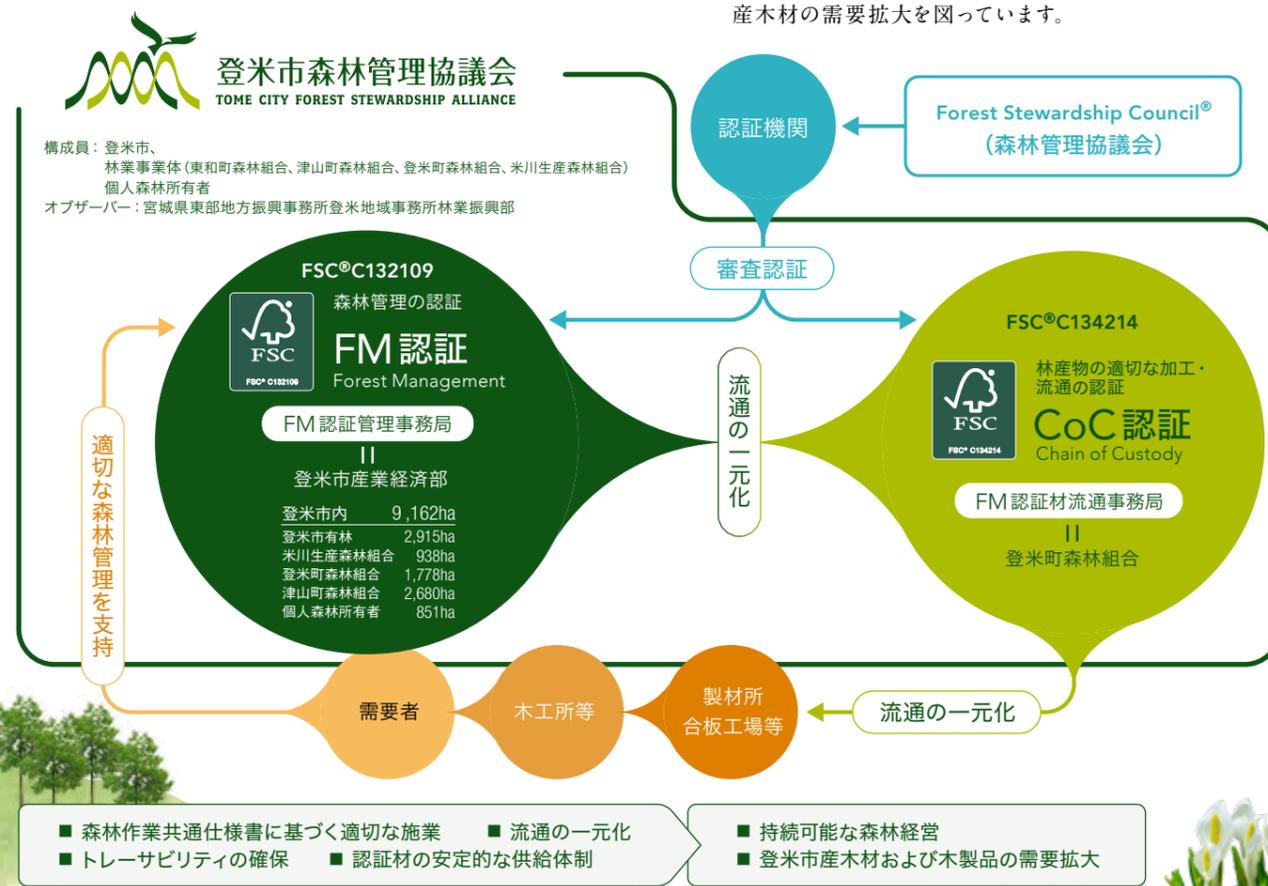
——とめ生き物多様性プラン

豊かな自然と共生する知恵と文化を次代へつないでいくことを目的に、登米市では「とめ生きもの多様性プラン」を策定。森林の適切な管理と活用も促進する本プランは、2010年に開催された生物多様性条約第10回締約国会議で採択された愛知目標にも対応し、地球規模の生物多様性の保全と、森林資源の持続可能な利用へとつなげています。

■ 登米市森林管理協議会

——持続可能な森林経営

宮城県の北東部に位置する宮城県登米市は、総面積53.6千haのうち22.2千ha(約41%)を森林面積が占める、県内有数の林業地域です。また国際的に重要なラムサール条約指定登録湿地の伊豆沼、内沼をはじめ、豊かな水辺空間を有する自然に恵まれた水の里が形成され、先人たちのたゆまぬ努力によって生まれた肥沃な耕土が広がる資源豊富な地域です。



■ SDGs 達成への貢献

——森林経営をととして世界を変える

2015年、国連サミットにて、世界各国が2030年までに達成すべき17のゴール「SDGs」が設定されました。これは、世の中で起きているさまざまな問題を背景に、このままでは地球がもたないという強い危機感の中から誕生した世界共通の目標です。

詳しくは右のQRコードから



FSC森林認証は、SDGsのゴールの1つ「陸の豊かさを守ろう」に関する指標の一つとなっていますが、その他のゴールである、貧困をなくす、飢餓をゼロに、健康と福祉、教育、男女平等、安全な水、クリーンなエネルギー、労働環境、責任ある生産活動と消費活動、気候変動、海の豊かさ、平和と公平、パートナーシップと、17の目標中14の目標達成に貢献しています。登米市森林管理協議会は地球に住む一員として、SDGsを自らの課題と捉え、持続可能な森林経営に努めてまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs: Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

VOICE 1

「生物多様性を育む森林」

中静 透 Toru Nakashizuka | 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 理事長
登米市生物多様性推進会議 委員長

生物多様性に配慮するということは、ただ単にいろいろな生き物がすめるように森林を管理するということではありません。そのような方法をとることによって、土壌の流出を防ぎ、きれいな水が生まれ、害虫や病気の大発生が起これなくなり、人々が安らぎを感じる森になるということだろうと思います。森林は石油や石炭と違って、うまく管理すれば何度でも再生できる資源なので、長い

目で見れば、そのほうが森林から受け取る利益が大きくなる、というやり方でもあります。翁倉山にイヌワシが戻ったらそれが実現しつつあることが目に見える形になるかもしれません。この先進的な考え方の重要性に気づいた登米市森林管理協議会は、未来に対して大きな投資をしているのだと思います。力強い活動と心から応援しています。

VOICE 2

「FSC 森林認証とSDGs」

海藤 節生 Setsuo Kaido | 尚絅学院大学 総合人間科学研究所 客員研究員 里山再生プロジェクトアドバイザー
みやぎグリーン購入ネットワークESD コーディネーター

管理された森林は、空気を浄化し、水を蓄え、多様な生物を育み、厳しい自然災害から我々の暮らしを守ってくれます。森林の重要性を訴える動きがグローバルに広がる中で、「登米市森林管理協議会」が国連森林経営国連森林戦略計画における森林認証を取得したことは、林業界にとって大きな一歩と言えます

るでしょう。今後、消費者の選択もますます重要となり、森林認証の取得はグリーン購入という視点からも大変期待できるものです。「森林を見ればそこに住む人々の暮らし向きと心のあり方がわかる」豊かに広がる宮城の森林と一緒につくっていきましょう。

山がみえるサプライチェーン

森林管理から
流通までを一体的に

適切な森林管理

登米市森林管理協議会では、森林経営計画の策定林分をFSC森林認証林として認定を受け、経営と管理の一体化を図っています。森林認証の基準に則した森林経営・管理を進めるため、登米市、林業関係者が一体となり、適切なPDCAサイクルに取り組んでいます。

森林管理計画 | Plan

森林経営計画をベースに、森林認証に取り組む基本理念と方針が示された森林管理計画を策定して、地域森林資源の把握、森林生態系の保全、野生動植物の保護、種の多様性の保全を図っています。森林に保全地帯、保護区域の設定のほか、渓流水質の保全や土砂流出の防止を目的に該当水域にバッファゾーンの設定などにも取り組みます。

共通の森林作業手順 | Do

森林管理計画に基づいた施業徹底のため、林業従事者向けに森林作業共通手順書を策定。本書には、保育作業（地拵、植付、下刈等）、収穫作業（間伐、主伐）、林道の維持管理方法について規定したうえで、日常の作業で活かせるようにチェックリストが作成されています。

モニタリング | Check, Action

森林管理計画にて定められた目標と森林作業共通仕様書に基づく施業の結果の差異を把握し、確実な改善につなげていくため、適時モニタリングを実施しています。

認証材流通の一元化と安定供給

認証材を確実に需要者のもとに届ける仕組みとして、登米市森林管理協議会内に「FM認証材流通事務局」を設置し、以下の施策に取り組んでいます。

流通の一元管理

登米市内の認証材では4つの林業事業者「米川生産森林組合」「東和町森林組合」「津山町森林組合」「登米町森林組合」が素材生産を行っています。これら林業事業者の「すべての認証材」の流通を流通事務局が一元的に管理しています。

安定供給

流通事務局では、認証材の需給調整を行い、登米市内の林業事業者と連携しながら認証材を確実に需要者のもとに届けられる共有体制の構築に取り組んでいます。また、供給先から素材生産者への要望のフィードバック、品質向上を図る研修会などを通じて、「安心して使える認証材」の安定供給に努めています。

認証のチェーンをつなぐ

流通事務局は、FSC森林認証におけるCoC認証を取得しています。これは認証材が需要者のもとに届くまで、認証のチェーンをつないでいくことで、認証自体の信頼性を支える役割を担っています。

CoC: Chain of Custody (管理の連鎖)

トレーサビリティの確保

登米市森林管理協議会では、認証材の生産・流通に臨むにあたり、

1. 持続可能な森林経営であること (サステナビリティ)
 2. 履歴が明確であること (トレーサビリティ)
 3. きちんと説明ができること (アカウントビリティ)
- この3つの柱を重要指針として据えています。

違法伐採は、地球規模での環境保全、持続可能な森林経営推進の観点から、最も深刻な問題の一つと言えます。この問題に対し、日本では「グリーン購入法」や「クリーンウッド法」が制定され、合法性等が証明された木材・木材製品の円滑な供給を図る体制整備が進められてきました。

FSC森林認証を取得している登米市森林管理協議会は、第三者監査により適切かつ持続可能な森林管理・流通を行っていることが確認されており、上記3つの指針をクリアした上で、グリーン購入法やクリーンウッド法に対応しています。

また、農林水産業みらい基金を活用して、ICT技術を用いて森林施業履歴と流通情報を統合するシステムを構築中です。

詳しくは右のQRコードから



本システムの運用により、効率的な木材流通と、より安心して使える木材の供給を通して、「山がみえるサプライチェーン」の構築を進めています。

認証材の需要拡大に向けて

登米市森林管理協議会は「森林管理」と「木材流通」に加え、認証材の需要拡大に向けた下記の取り組みを行っています。

ワンチャンネル・サポート

流通事務局では、流通の一元管理を行う強みを活かして、認証材を使用した製品開発に取り組む事業者への各種サポートを行っています。製品に適した樹種の選定や、CoC認証を取得している製材所等の紹介、さらには製品販売に必要な認証材の供給までコーディネートします。

次世代の木材乾燥システム

登米町森林組合では、灯油等の化石燃料を使わず、太陽熱の利用から大量の木材を乾燥・ストックさせる「太陽熱木材乾燥庫 ToSMS(トスマス)」を導入。エコロジカルで高品質な認証材を安定して供給できる体制も整備しています。

詳しくは右のQRコードから



補助制度

登米市ではCoC認証の取得等を行う市内製材業者等に対し「登米市森林認証取得支援事業補助金」や登米市産木材を使用した住宅等の新築及び増築をする方への「登米市地域材需要拡大支援事業」、木質暖房機器の導入に向けた「登米市住宅用新・省エネルギー設備導入支援事業補助金」等の制度により、認証材の需要拡大を側面から支援しています。

VOICE 3

「生産者から見た登米市森林管理協議会」

野村 治 Osamu Nomura | 津山町森林組合 林産課長

登米市の南東部に位置する津山町森林組合は、組合員739名が所有する山林の経営管理を行っています。森林認証に取り組むことは、周辺森林組合等との密な連携へとつながり、共同研修会などを通して森林施業や安全対策の質が向上しました。さらに木材流通を地域一体で行う中で、販売先

である製材所や合板工場のご担当者と直接対話を重ねていき、素材生産の質も向上しました。この取り組みを通して、成熟した森林資源を認証材として有効に活用してもらいながら、森林整備をより一層推進して、組合員さん方の負託に応えていきたいと思っています。

VOICE 4

「持続可能な森林資源の利用と保護に貢献するために」

白出 文徳 Fuminori Shirade | 石巻合板工業(株) 原木資材部 次長

石巻合板工業は、針葉樹構造用合板やLVL等の製造を生業としています。積極的に県産材を使用していくためには、森林から木材を安定的に供給していただくことが不可欠です。このような中で流通基本協定書を締結した登米市森林

管理協議会より、認証材の計画的な安定供給を受けることができ、大変ありがたく思っています。グリーン購入やSDGsへの関心の高まりから森林認証製品の要望も増えてきているので、今後も連携を強化しながら時代に即した製品の提供を行ってまいります。

森の恵みを活かして、次世代に受け継ぐ

森林環境教育

森林は木材以外にも私たちに多くの恵みをもたらしてくれます。森に足を踏み入れると、一面に緑が覆い、木々や土が香り、森に息づく生命の力を感じます。そしてその力は私たちに癒し、リラックスさせてくれます。これまでも「森林浴」として親しまれてきましたが、森林の持つ癒しの効果を科学的に解明し、心と身体の健康に活かそうという試みの一つとして「森林セラピー」は誕生しました。

登米市は、宮城県で唯一の森林セラピー基地「登米ふれあいの森」を有し、多くの人々に心のやすらぎを提供しています。

詳しくは右のQRコードから

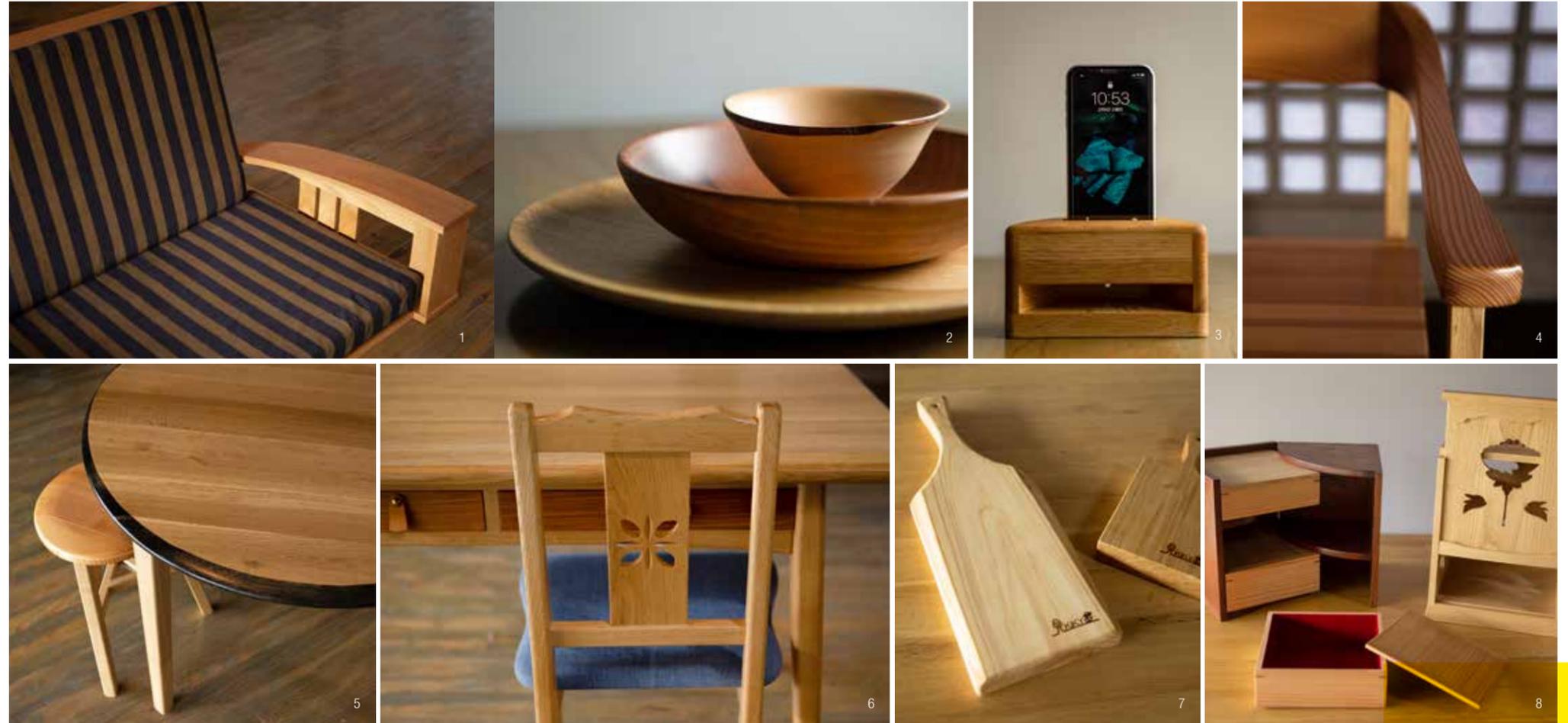


また米川生産森林組合では、地元小学校の緑の少年団の活動支援を通して、次代を担う子どもたちに、緑と親しみ、守り育てる中で、心豊かな人材を育てる取り組みを行っています。

身近に木のある暮らしを

— 登米市の豊かな森とつながる木製品

登米市森林管理協議会で管理・生産された木材でつくられた製品の一部をご紹介します。



1. (座椅子) 桜材のなめらかな木目が手にしっくりとなじみます 2. (食器) 木の食器で食卓に温もりを 3. (スマートフォン用スピーカー) 柔らかな音色に包まれて 4. (椅子) 手仕事ならではのなめらかな曲線 5. (テーブルセット) 小さなテーブル 6. (テーブルセット) 木の温もりが家族の団らんの時間を紡ぎます 7. (カッティングボード) まな板として、また料理を盛り付けて食事の時間を素敵に演出 8. (重箱) 特別な日に使うだけではなく小物を飾る小箱として

VOICE 5

「森林環境教育に取り組む想い」

遠藤 克美 Katsumi Endo | 米川生産森林組合 参事

登米市の北東部に位置する米川生産森林組合は、組合員650名が所有する山林の管理経営に取り組んでいます。豊かな恵みをもたらす森はみんなの“共通の財産”です。この財産をしっかりと未来に引き継いでいけるよう、2017年に当生産森林組合の928 haを森林認証林として登録し、森林管理の技術をさらに高めています。次代を担う子どもたちが、この地の豊かな森林に触れる中で、五感

を研ぎ澄ませ、考える力を養いながら学び育てほしい。そんな願いから、米川小学校の緑の少年団の活動支援も行ってきました。さらに(株)登米村田製作所と協定を締結して、森づくり活動を通して森林の役割を体感していただいています。従来の林業の枠にとらわれない活動に、とてもやりがいを感じています。

VOICE 6

「暮らしにとけ込む木製品」

阿部さん/佐藤さん/千葉さん | クラフトショップ・もくもくハウス
(津山木工芸品事業協同組合)

もくもくハウスは道の駅津山にあります。木目が素直で柔らかい杉を丹念に継ぎ合わせた矢羽(やばね)集成材を中心として、木の持つやさしい肌触りを活かしたおもちゃや生活用品などの製造販売を行っています。身近に木のある暮らしを提案していくことが、水と空気を生み出し災害に強い森林づくりにつながります。認証材を積極的に使うことで、未来を担う子ども達の健やかな成長を支えていきたいと思っています。

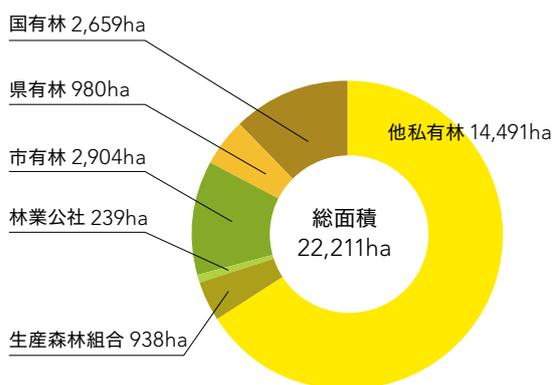




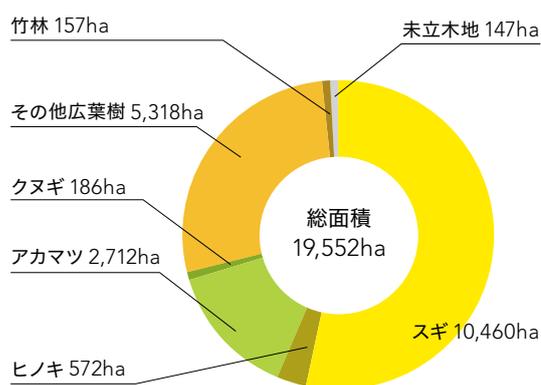
宮城県登米市

登米市内森林の現況

1 所有形態別森林面積



2 民有林樹種別森林面積



登米市森林管理協議会
TOME CITY FOREST STEWARDSHIP ALLIANCE



登米市



東和町森林組合 | 津山町森林組合 | 登米町森林組合



米川生産森林組合

森林認証全般についてのお問合せ

FM 認証管理事務局：登米市産業経済部農林振興課

〒987-0602

宮城県登米市中田町上沼字西桜場18

TEL 0220-34-2709 FAX 0220-34-2802

認証材の流通についてのお問合せ

FM 認証材流通事務局：登米町森林組合

〒987-0703

宮城県登米市登米町大字日根牛小池100

TEL 0220-52-2075 FAX 0220-52-2876

e-mail info@forest100.jp



<https://forest100.jp/FSC/>